

基本目標1 子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現

重要業績評価指標（KPI）の進ちょく状況

指標	基準値	現状	数値目標	指標	基準値	現状	数値目標
保育所待機児童数	20人	12人	0人	「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率	平均を下回っている	平均を下回っている	平均を上回る
	平成27年4月	平成29年4月	平成32年4月		平成27年	平成28年	平成31年
学童保育所待機児童数	194人	114人	0人	生涯学習講座・教室受講者数	7,092人	6,239人	8,100人
	平成27年4月	平成29年4月	平成32年4月		平成26年度	平成28年度	平成31年度
合計特殊出生率	1.27	1.18	1.32				
	平成26年	平成27年	平成31年				

① 安心して子どもを生み・育てられる環境の整備

・ 出産・子育て情報提供事業

妊娠期における「育児パッケージ」贈呈を平成28年度から開始した。贈呈の機会を捉え、保健師等による面接を実施することで、子育てに関する不安や心身の不調の早期発見、未然防止へと繋げている。

・ 保育所施設整備事業

良質な保育環境確保に向けて、これまで保育所施設整備に継続して取り組んできており、平成28年度においては、青梅みどり第二保育園、かすみ台第三保育園、成木保育園で整備を完了し、定員は25名増となった。

・ 保育所バスステーション事業

バスステーション事業について検討会議を開催し、再検討を行った結果、保育施設の定員増、待機児童の解消傾向、利用を希望する方が著しく少ないなど、事業実施に要する経費等総合的に判断した結果、事業の実施を見送ることとした。

・ 放課後子ども教室事業

新規開設した成木小学校を含め、計11校に拡大し、年間の参加児童数は、延べ22,202人となった。また、放課後子ども総合プランにもとづく、学童保育との連携を拡充した。

② 青梅ならではの教育環境の充実

・ 学力向上事業

土曜日の補習事業「青梅サタデースクール」(13会場)を各会場16回から20回実施した。また、放課後等の補習事業「学力ステップアップ推進地域指定事業」を26校において実施した。

基本目標2 青梅に暮らし、働き、訪れる人々にとって魅力あふれるまちを創出

重要業績評価指標（KPI）の進ちょく状況

指標	基準値	現状	数値目標	指標	基準値	現状	数値目標
企業誘致条例を活用した誘致企業数(累計)	3件	3件	6件	青梅市の認知度	95.1%	95.1%	100%
	平成27年4月	平成29年4月	平成32年4月		平成27年度	平成27年度	平成32年度
民営従業者数(経済センサス)	52,370人	52,370人	53,000人	転入超過率	△1.2242	△0.6774	0以上
	平成24年	平成24年	平成30年		平成26年	平成28年	平成31年
青梅市駅周辺の歩行者交通量	18,999人	18,999人	20,000人	空家の活用事例数(累計)	1件	2件	10件
	平成24年度	平成24年度	平成32年度		平成26年度	平成28年度	平成31年度

① 農・林・商・工業の活性化

・ 梅の里再生事業・緊急防除対策事業

平成27年度から開始した強化対策の効果が評価され、平成28年10月一定の条件のもと梅郷全域、和田町全域に再植栽を認める国の判断がなされた。これに伴い、約2,700本の梅樹を農地や観光施設へ植栽した。

・ 農商工産業連携推進事業

市内の農林業者等で構成された団体が実施する、6次産業化にかかる新たな加工品の研究・開発にかかる経費とその後の商品化およびその販路拡大に向けた取組を支援した。

・ 女性の再就職・若年者就職アシスト事業

女性の再就職や若年者の就職に向け、人材育成のための支援プログラム(講座等)の実施、プログラム修了者を対象とした合同企業面接会の開催など、人材育成から就職開始まで一連の過程を結びつけて展開した。

② 魅力あふれる地域資源を生かした情報発信力の強化

・ 地域の魅力発信事業

全国的に活発化しているふるさと納税の取組の充実を図り、財源の確保に努めるとともに、青梅市の魅力を発信する機会とした。また、オリジナルグッズを活用したPRの充実や、新規転入者へのおもてなし事業の充実を図った。

③ 青梅で暮らしてみたい！を実現できる住宅環境の整備

・ 空家対策事業(空家バンク事業)

空家バンクは、これまで協働事業として、特定の地区で試行的に実施してきたものを、市の事業として全市に展開し、これに伴い、新たに登録した物件について、成約に結び付いた。

・ おうめ！観光戦略創造プロジェクト

・ 商店街空き店舗活用事業

⇒地方創生加速化交付金充当事業実施実績(資料2)

基本目標3 将来を見据えた、安全・安心なまちづくりを推進

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

指標	基準値	現状	数値目標
JR青梅線利用者数 (河辺駅、東青梅駅、 青梅駅の乗客数)	26,984人	27,002人	26,900人
	平成26年度	平成28年度	平成31年度

指標	基準値	現状	数値目標
自治会加入率	45%	42%	45%以上
	平成27年度	平成29年度	平成31年度
交流・連携を目的と した自治体との協定数	10	10	11以上
	平成27年度	平成27年度	平成31年度

① 時代に合った都市機能の充実

- 公共施設等マネジメント事業**
(公共建築物保全整備事業と公共施設再編・再配置事業を統合)

厳しい財政見通しを前提に、将来のまちづくりを見据え公共施設等の最適な配置に向けて、総合的、計画的に推進するため公共建築物等管理計画を平成28年度に策定した。
- 新生涯学習施設（仮称）整備事業**

平成29年3月末に閉館した青梅市民会館跡地に新生涯学習施設の整備を進め、青梅市民センターや釜の淵市民館など各施設に分散していた機能を統合する。
- 日本ケミコン跡地の利活用（新市民ホール建設構想事業）**

東青梅1丁目諸事業用地について、時代に合った機能の複合化・集約化など多面的な利活用・運営方策について、検討を開始する。

② 地域内・地域間の連携促進

- 自治会加入促進事業**

防犯、防火防災、環境美化等の地域の課題に取り組み、地域コミュニティの形成を図る自治会連合会と協働による取組をさらに推進するため、平成29年1月に、連携基本協定を締結した。
- 空き家を活用した地域コミュニティ事業**

空家を地域活動や地域住民の交流を目的とした拠点として活用する場合の支援事業の新設について検討を進め、新たに開始した。
- ホストタウンの推進・オリパラ機運醸成事業**

平成28年6月にドイツ連邦共和国のホストタウンとして登録された。これを契機とし、10月にはドイツよりカヌー・ナショナルチームコーチやオリンピックを含むカヌー選手を招待し、大会への参加や市内小学生との交流を行うなど2020年東京大会に向けた気運醸成を図った。